

ドクターシロクマ重症心身障がい児デイサービス

職員マニュアル

感染症予防 緊急時対応 送迎車乗降マニュアル 防災・防犯等

2021年2月3日

感染症予防

子どもの集団活動において最も避けたいのは集団感染です。当所では感染拡大を未然に防ぐため、スタッフ全員でマニュアルを共有し早期発見と迅速な対応に努めています。

【日々行っていること】

- ・職員は出勤時に検温を行い、37.0℃以上時はすぐに管理者か看護師に報告します
- ・1 時間に 10 分間換気をします
- ・来所時は児童、職員共に手指消毒を行います
- ・職員は基本、1 動作 1 消毒します
- ・食事介助を行う際はエプロンを使用します
- ・おやつなど、手で直接触れる場合は手袋をします
- ・児童に感染症の恐れがある場合は、早急に保護者と連絡を取り、隔離や帰宅等の措置をとります

【消毒】

- ・児童が使ったおもちゃはサポステ（エタノール）で拭き取ります
- ・毎朝の清掃はサポステ（エタノール）で行います
- ・手指消毒はアルボナース（塩化ベンザルコニウム）で行います
- ・排泄物は次亜塩素酸ナトリウムを使用します
- ・感染症の疑いのある児童が乗車した場合、次亜塩素酸ナトリウムを車内に噴霧・清拭します

【排泄物の処理】

- ・嘔吐した児童への対応は基本 2 名とし、職員が感染の媒体になるのを予防します
- ・嘔吐時に必要な物品をセットして配備し、スタッフ全員が周知しています
- ・オムツ交換に必要な物品をセットして配備し、他の物に触れないようにしています
- ・嘔吐した児童に対応する職員は、手袋、腕カバー、マスク、使い捨てエプロン、フットカバーなどで防護し、他児童への感染を予防します
- ・嘔吐や下痢などで汚染した衣類は洗わずビニール袋に入れ、消毒薬に浸した状態で持ち帰ります

【保護者様へお願い】

嘔吐や排便で汚染した衣類はそのままビニール袋に入れ、次亜塩素酸ナトリウム消毒薬に浸した状態で持ち帰ります。施設内で洗うことにより感染拡大につながりますのでご了承ください。

次亜塩素酸ナトリウムは脱色の問題がありますが、ご家庭での感染を防ぐためでもありますのでご理解のほどお願い致します。（次ページの表をご参照ください）

【排泄物の処理手順】

- ・施設内で嘔吐があったときは、必要物品の入った BOX を持っていきます
- ・基本はスタッフ 1 名が児童の世話をして、1 名が物品や処理など介助にあたります
- ・必要以上のスタッフに関わらないようにして、感染源の拡散を最小限にします

準備



保護メガネ、帽子、マスク、手袋、シューズカバー



バケツ(ポリ袋2枚重ね)、ペーパー

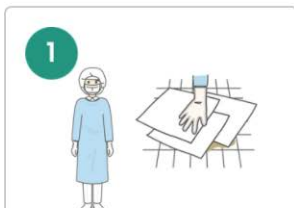


ガウン



次亜塩素酸ナトリウム

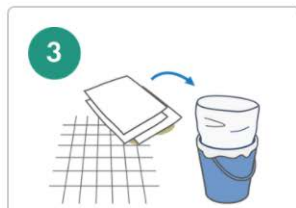
手順



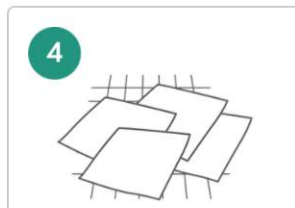
1



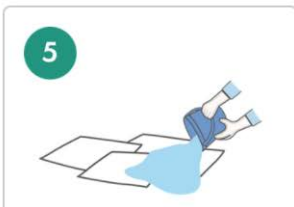
2



3



4



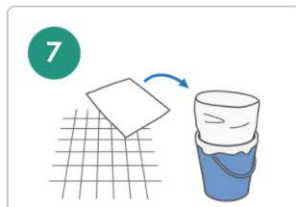
5

次亜塩素酸ナトリウムをまく
※ペーパーおよびかべなど周囲の出来る限り広い範囲を処理する
※10~15分放置する



6

ペーパーを回収後、残った次亜塩素酸ナトリウムを中央に向かって拭き取った後、更に拭き取るか流水で洗い流す



7

拭き取ったペーパーをポリ袋に捨てる



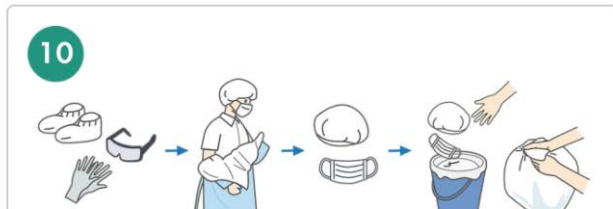
8

手袋をポリ袋に捨て手指衛生をした後、新しい手袋を着用する
※必要に応じて、次亜塩素酸ナトリウムを排泄物が十分に浸る量入れる



9

1枚目のポリ袋の口を縛る
※汚物が飛散する可能性があるため、空気は抜かない



10

シューズカバー→手袋→メガネ→ガウン→帽子→マスクの順に脱ぎ2枚目のポリ袋に入れ、口を縛り捨てる



11

処理後、速やかに手指衛生とうがいを十分に行う

けいれんなど緊急時の対応

【保護者との連携】

重篤なけいれんを起こす可能性がある児童に対して、保護者の依頼に基づいて書面を作成した上で、頓服薬をお預かりします。主治医の指示書がない場合は、保護者と取り決めのもと実施します。

【けいれんが起こったとき】

けいれんの秒数、回数など健康チェック表に記入し、児童の変化や環境との関係を考察しています。けいれんが1分以上続き嘔吐している場合は、下記のけいれんの観察表をもとに観察をします。必要に応じて動画撮影するなどして保護者と情報を共有できるようにします。

【救急隊による講習】

防災訓練の際、小児の心臓マッサージについて人形を使用して模擬演習を行いました。また、救急隊への連絡方法を入職時にオリエンテーションしています。

けいれんが起こったとき

けいれんの種類

- 強直発作**: 全身に力が入り、硬く直ぐと重くなる
- 間代発作**: 全身あるいは体の一部がピクピク、カクカクする
- 強直間代発作**: 全身発作と間代発作の両方の特徴を併せ持つ
- ミオクローン発作**: 全身あるいは体の一部が一瞬ピクピクする
- 非定型欠伸発作**: 意識がなくなり、目を閉じて、呼吸が浅くなる

けいれんが起こったときの対応

- けいれんが起きたら、安全な場所に移動させる
- けいれんが止まらないうちに、けいれんが止まるまで、目を閉じて、呼吸が浅くなる
- けいれんが止まらないうちに、けいれんが止まるまで、目を閉じて、呼吸が浅くなる

けいれんの観察表

けいれんの種類	時間	場所	状況	経過	対応	結果
強直発作	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00
間代発作	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00
強直間代発作	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00
ミオクローン発作	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00
非定型欠伸発作	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00

子供の救命措置

- 意識がない**
気道確保
下唇を挙げる
頭部を下げて
気道の通りを確保する
- 119通報**
周囲の人が救急に連絡する
- 脈が触れない**
心臓マッサージ
手首や頭部で脈が触れない
もしくは胸に耳を当てても
心拍が確認できない場合
胸骨中央で100回/分
- 呼吸がない**
人工呼吸
鼻や口に耳を当てても
呼吸が確認できない場合
心臓マッサージを行いながら
人工呼吸をする

意識レベルの尺度

3-9度方式 (さんさんくどほうしき)

意識レベルの尺度として用いられる「Japan Coma Scale (JCS)」の総称。
意識状態の程度により意識レベルを大きく3段階に分け、さらにそれぞれを3つに細分化し、合計9段階で意識レベルの高低を評価する。

- I 覚醒している状態 (0の点数で表現)**
 - 1: 見当識は保たれているが、意識障害ではない。
 - 2: 見当識障害がある。
 - 3: 自分の名前、生年月日と言えない。
- II 刺激に応じて一時的に覚醒する状態 (1の点数で表現)**
 - 10: 普通の呼びかけで容易に覚醒する。
 - 20: 大声で呼びかけたり強く責めたりすることなどで覚醒する。
 - 30: 痛み刺激を加えつつ、呼びかけを続けるとようやく覚醒する。
- III 刺激をしても覚醒しない状態 (2の点数で表現)**
 - 100: 痛みに対して強いけいれんなどの動作をする。
 - 200: 痛み刺激で手足を動かしたり、顔をしかめたりする。
 - 300: 痛み刺激に全く反応しない。

R (不律)、I (失禁)、A (自然排便) など付加情報を合わせて「3R」「JCS100I」などと表す。

救急車を呼ぶときの連携

- 報告する情報を整理する**
通所児の名前・年齢・病名
起こっていること (症状、発熱、動機、血圧など)
- 山本先生に連絡する**
子どもの情報と様子を知り、救急搬送するかどうか指示を仰ぐ
→山本クリニック (03-3821-0100)
→携帯TEL: 090-4804-4837
- 親御さんに連絡する**
車を伝えて救急搬送する場合は、その旨を伝える
かかりつけ病室と主治医を確認する
- 「119」連絡**
子どもの身支度を整える (通常5~7分で救急車が到着する)
救急隊は救急隊到着後に決定する
- 救急隊が来ないよう、1人は道端で待つ**
管理人さんの能力を借り
救急用エレベーターを使用する
- 搬送先が決まったら山本先生と親御さんに連絡する**
親御さんには、準備して待機に向かうよう伝える
保険証、母子手帳、お薬手帳、その他の手帳、靴、タオル、お金など

必要に応じて情報に付き添う
通所児の情報シート、当日のバイタルサイン、けいれんの観察表
薬箱、薬類、かかりつけ医など、申し送り情報を準備する

救急車(119)を呼ぶとき

準備しておく情報: 通所児の年齢、性別、名前、住所、病名、かかりつけの病院、主治医など

- 119番です**
火事ですか?
救急ですか?
救急です
- 住所はどこですか?**
救急センターはどのあたりですか?
救急センターはどのあたりですか?
救急センターはどのあたりですか?
- どうしましたか?**
通所している子供がけいれんを
起こして倒れています。救
急搬送をお願いします。
- おいくつの方ですか?**
年齢、性別、
職業、かかりつけの病院
子供の病歴、病名
救急隊さんへの連絡の経緯など
- あなたの名前と住所を教えてください**
救急隊の
OOOです

多くの理由を
尋ねられたら...
→かかりつけ医から救急車を呼んだこと
→救急センターに到着したところ

送迎車乗降介助マニュアル

運転手と、最低 1 名の添乗者で行います。互いに声掛けをして確認しながら乗降作業をします。
入職時はデモンストレーションを行い、見学と実施経験をした後、1 名で添乗します

【建物～乗車までの安全確保】

- ・人通りの多い歩道なので、ビルから出るときは左右を確認します
- ・道路に降りるとき（段差・坂あり）は、児童が後ろ向きになるようにして降ります
- ・後方から来る車に注意して送迎車に近づきます
- ・運転手は乗降リフトを下ろすとき「下ろします」と声をかけます
- ・乗降リフトが完全に降りたことを確認して、添乗者はバギーを乗車させブレーキをかけます
- ・バギーのロックは必ず 4ヶ所行い、2 名で確認後「ロックします」と声をかけます
- ・乗降リフトが上がるときは、添乗員が必ず児童の前に立ち、乗降中の事故防止と不安軽減に努めます
- ・乗降リフトが動くとき運転手は「動きます」と声をかけます
- ・添乗者は児童に「動きます」と伝えます
- ・乗降リフトが完全に止まったら、運転手と添乗者 2 名でシートベルトを肩と腹部にかけ確認します
- ・シートベルトが顔に当たるときはガーゼの布で保護します
- ・運転手は後方のドアを開めるとき「閉めます」と声をかけ、二段階で静かに閉めます

【乗車中の安全確保】

- ・添乗者は児童の近くで、児童の様子が見えるように座ります
- ・添乗者乗車中の車内の温度に気を配ります
- ・添乗者は出発時と到着前に保護者に連絡します
- ・添乗者はスマホ使用中も外部の変化にいち早く気づけるよう、周囲に意識を向けるようにします
- ・添乗者は児童の様子に変わりがないか、常時確認します

【降車～建物までの安全確保】

- ・運転手が後方のドアを開けてから、運転手と添乗者 2 名でシートベルトを外します
- ・運転手は乗降リフトを下ろすとき「動きます」と声をかけます
- ・添乗者は児童に「動きます」と伝えます。
- ・添乗者は児童の前に立ち、降車中の事故防止と不安の軽減に努めます
- ・乗降リフトが完全に止まったら、添乗者は降りて「ロックを外します」と声をかけます
- ・運転手と添乗者でロックを外し、バギーに引っかからないよう格納します
- ・添乗者はバギーのブレーキを解除し、バギーを下ろします
- ・後方の安全を確認して道路から歩道に上がります
- ・その間に運転手は乗降リフトを戻し、後方のドアを閉めます

【事故発生時の対応】

- ・どんな小さな事故でも相手がいる場合は警察に連絡をします
- ・相手、あるいは児童が受傷している恐れがあるときは、どんな小さな症状でも救急隊に連絡します
- ・運転手は状況に応じて早急に3ヶ所「警察」「救急隊」「管理者」に連絡します
- ・添乗者は乗車している児童の保護に努め、来所・帰宅方法については管理者の指示に従います
- ・緊急時に圧迫止血など行うためのガーゼやタオルなどを車内に準備しています
- ・運転手、添乗者、管理者の役割を明確にし、入職時にオリエンテーションをしています

【その他】

- ・車の安全管理として、車両点検を毎日行っています
(灯火装置、方向指示器の点灯、乗降リフトの動作確認等)
- ・児童や職員の手が触れるところは、毎日アルコール消毒を行っています
- ・車内に緊急時（嘔吐や外傷等）の物品を備えています
- ・適宜、車内と車体の清掃をしています
- ・一年に一度、車両の法定点検を受けています



乗降介助手順



送迎中の事故 落ち着いて。チームワークで行動しよう

送迎時の持ち物
交通費現金のお金
備忘録のメモ
紙幣1円

現場で連絡するところ3つ

- 110番**
小さな事故でも必ず警察に。スムーズな解決のため
- 119番**
怪傷でも必ず病院に。自分と相手を守るため
- 責任者に連絡**
家族やドライバーへの連絡を依頼。後の送迎や応援スタッフなどの指示を待つ

警察の増援検証を受けよう

添乗者の役割・児童の保護

- ケガ人がいますか？
はい
・車内の敷き垫で可能な心臓手当
・応急処置の処置を行う
・家族への連絡は事業所から行う
・警察所の指示に従う
- 送迎中の児童がいますか？
はい
・車内で児童に付き添う
・2名以上の乗客はヘルプを行う
・家族への連絡は事業所から行う
・警察所の指示に従う
- 徒歩で移動可能な距離ですか？
はい
・1名の乗客は家族と連絡を取りながら安全に送り届けてください。

責任者の役割・各連絡と指示

送迎中の児童への対応	搬送した児童への対応	守田さんへの連絡
<ul style="list-style-type: none"> 応援スタッフが手配する。送迎方法決定後、すみやかに各家庭に連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 搬送方法が決まったら、出来発生と家族に連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 必要となる送迎方法を報告する

送迎時の持ち物
交通費現金のお金
備忘録のメモ
紙幣1円

防災

シロクマデイの災害時避難場所：東中学校



大阪市危機管理室

電話：06-6208-8841 ファックス：06-6202-3776

住所：〒530-8201 大阪市北区中之島1丁目3番20号（大阪市役所5階）

【災害時の連絡方法】

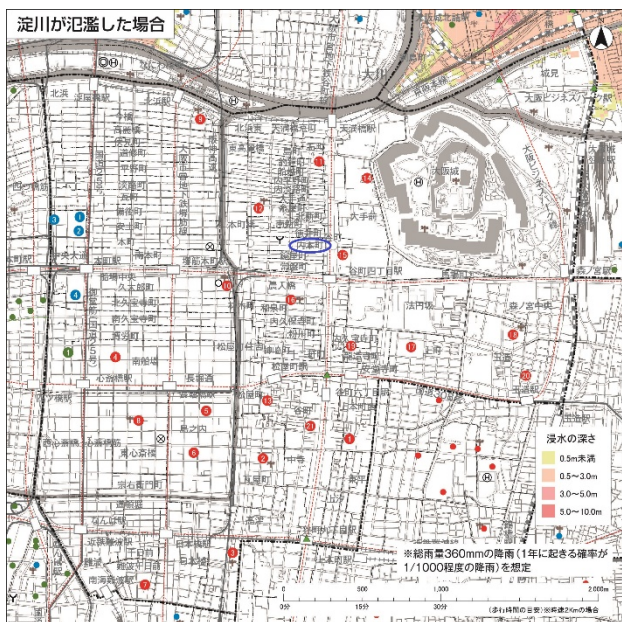
災害の恐れがある場合、事前にLINEで一斉連絡をします

個別で連絡が必要な場合は、LINE または電話を使用します

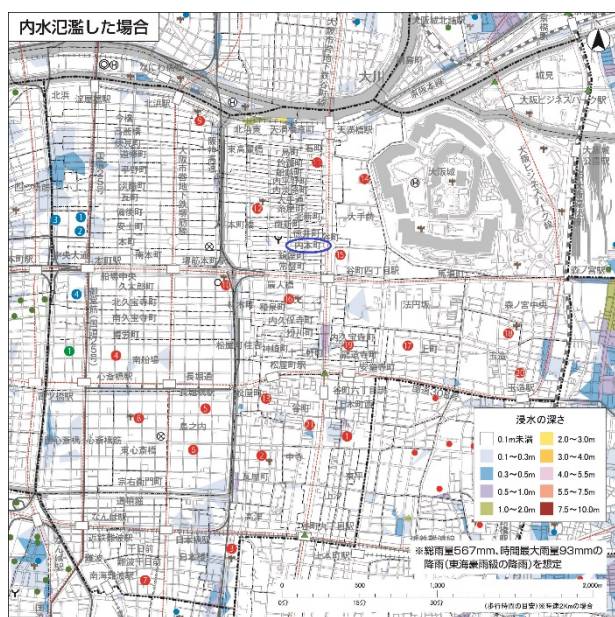
社用携帯電話番号：080-9424-3354

【災害ハザードマップ】

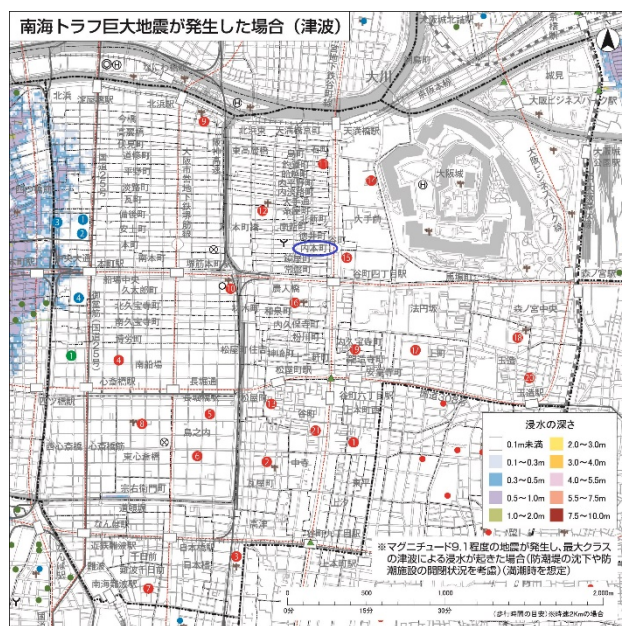
淀川が氾濫した場合



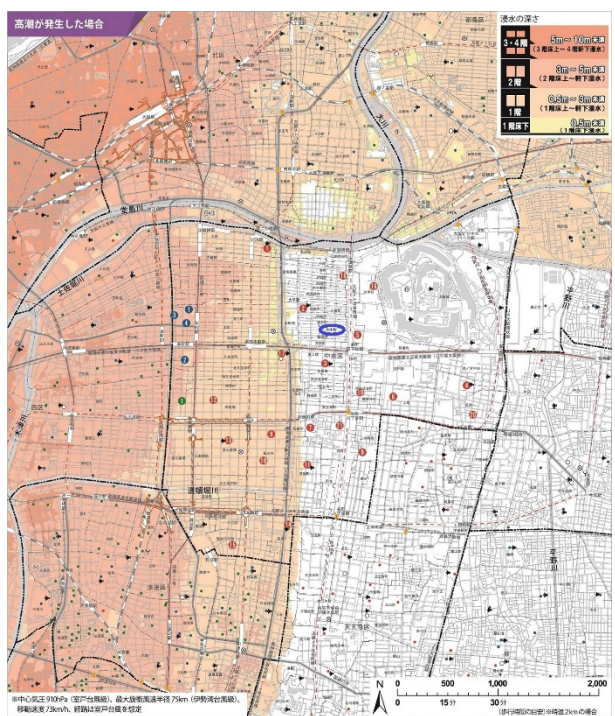
内水が氾濫した場合



南海トラフ巨大地震が発生した場合(津波)



高潮が発生した場合



シロクマデの所在地

大阪府内本町 1-2-8 は、いずれも危険度の低い地域になります

【防災避難訓練】

第1回 2020年6月3日(水) 15時~16時

【指導者】大阪市中央消防署・消防隊員 3名

【参加者】(職員) 大村、河合、瀬野、辻、中野、峯、藪田

【訓練内容】

種別：火災

人数：スタッフ7名、児童4名※うち1名はスタッフが寝たきり(低緊張)の児童役を行い、他3名はぬいぐるみを使用。

概要詳細：サービス提供時間内に、当事業所内コピー機横のコンセントより出火。

スタッフ役割：中野→火災発見(火事を周知)と、119番通報。

河合→各スタッフへの指示、現場指揮。

大村→消火器を使ったの消化活動。

峯 →寝たきり(低緊張)児童役※マットレスの上で横になっておく。

藪田

瀬野(看護師) } 児童の避難誘導※寝たきり児童の介助優先。
辻(看護師) }

以上の役割で訓練を行い、訓練後、消防士3名の方から以下のアドバイスをいただきました

- ① 消火器の使い方
- ② 肢体不自由者の搬送方法(1名での搬送と2名での搬送)
- ③ 普通救命講習について
- ④ 児童の救急蘇生法とAEDの使用方法

消防訓練通報書


2020年5月29日

大阪市中央 消防署長 様

住所 大阪市中央区本町1-2-8
〒542-0998

防火管理者 氏名 河合 直樹
電話番号 06-6910-1200

消防計画に基づく消火訓練及び避難訓練を実施するので、消防法施行規則第3条第11項の規定により、次のとおり通報します。

事業所の所在地	大阪市中央区本町1-2-8 〒542-0998	
事業所の名称	1779-31077 難症心身障害児のケアサービス	用途 児童福祉施設
実施日時	2020年6月3日 15時00分から16時00分まで	
訓練内容	<input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練・避難訓練 (必須)	<input type="checkbox"/> 通報訓練 <input type="checkbox"/> その他の訓練(応急手当訓練など)
参加人員	6人	
訓練概要(具体的に記入すること) サービス提供時間内に、当事業所内コピー機横のコンセントより出火。 (1名→通報訓練) 消防隊員が即座に指示をとり対応 (1名→消火訓練) 実施します。 ※火器器操作 (1名→寝たきり児童役) 消防士、AED、人形あり (3名→避難誘導訓練) ありました。 当事業所は発達障害の児童が寝たきり児童の役割(用器)で対応。 消防士がAED(発達障害児が)を搬送する旨に案内します。→その後AEDが搬送に成功		
		※経過欄

備考 1 訓練計画書がある場合は、添付すること
2 訓練内容の欄は、消火訓練及び避難訓練のほか実施を予定している訓練の口にいを付けること
3 捺印の欄は記入しないこと

第2回 2020年9月15日(火) 15:20~16:20

【参加者】河合、山本、大村、峯、中野、松本、瀬野

【訓練内容】15:20~15:50

種別：火災

(通報・消火・避難訓練実施マニュアルに沿って行う)

人数：スタッフ7名、児童4名(1名は利用児童・3名はシロクマぬいぐるみ対で対応)

詳細：サービス提供時間内に、事業所内複合機コンセント部分より出火。

スタッフ役割：河合→総指揮

大村→出火発見

峯→消火器使用し、消火活動

瀬野→119番通報(火事であること・住所・人数・怪我人の有無等報告)

松本

Dr.山本

中野

児童の避難誘導

階段を使用し、屋上北側に全員無事に避難、訓練終了

上記役割で避難訓練を実施、訓練後振り返り・反省点・改善点等共有した。

前回【第1回防火訓練】の際の要領を覚えており、役割も決めていたため、スムーズに進行。



【防災準備】

非常用物品

使い捨てカイロ	ライター	ろうそく	乾電池（単 4）	懐中電灯
携帯充電器	軍手/手袋	防寒シート	レジャーシート	ビニール袋
ティッシュペーパー	ウェットティッシュ	新聞紙	タオル	携帯電話
油性マジック	メモ	ペン	現金 1 万円	小銭

非常用衛生用品

マスク	消毒液	滅菌ガーゼ
脱脂綿	絆創膏	マスク
包帯	刺抜き	常備薬

非常用食料

飲料水（長期保存用ペットボトル）	2027.10/29 期限
コップ（マグカップ・スプーン・ストロー）	
缶詰	2023.2.25
フルーツグラノーラ	2021.8.1
ビスコ	2025.11
チョコレート	2021.3
乾パン	2024.9
アルファ米	2025.5
レトルト食品（カレー甘口）	2025.10
レトルト食品（卵がゆ）	2021.9.2
レトルト食品（さばオリーブオイル漬け）	2022.3
カロリーメイト	2021.6
調乳済ミルク	2021.8

防犯対策

- ・当ビルのセキュリティシステムにより、24 時間監視カメラを室内に備えています
- ・定期的に防犯訓練を実施し、緊急時の対応をスタッフ間で共有しています
- ・ドアの入り口にはインターホンを設置しています



その他：防犯上、画像は掲載いたしません

- ・個人情報ファイルは書庫に保管し、施錠しています
- ・ドアとフロアの間には防犯用の柵を設置しています
- ・いざというときの防犯グッズを備えています
- ・静養室に鍵を設置し、一時避難場所としています

